

ハウロクイチゴ（成葉）

[木本] 《忌避》



林縁や道ばたで普通に見られる。



表裏とも脈上に刺がある。



花は普通下向きに咲く。

区別のポイント

葉は卵円形で不揃いに浅く裂ける。
裏面や葉柄には淡褐色の軟毛が密生し刺がある。

形態 ややつる性の常緑低木。

分布 本州（中部地方以西）・四国・九州・沖縄

名前の由来 実の形あるいは葉の形が焙烙に似ていることから。

葉 〈全体〉卵形または卵円形で長さ8～17cm。

〈付き方〉互生。 〈葉柄〉軟毛が密生し刺がある。

〈基部〉心形。 〈葉先〉鈍形。

〈縁〉不規則に裂け鈍鋸歯がある。

備考 トゲ。西部林道沿いにおいては、新芽・新葉は、かなりの割合でよく採食しているのが確認され、種の存続、後継樹の育成に懸念を示すとの意見もあった。（シカWG）

出典 1, 12